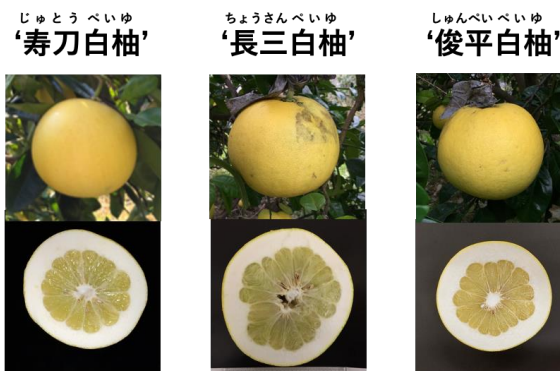


PRESS RELEASE (2024/03/22)

おいしい・種子が少ない・露地栽培も可能！新しいブンタン3品種の育成に成功
-九大のカンキツ研究の歴史が果樹産業の課題解決に貢献する-

長年の研究により、九州大学大学院農学研究院の研究グループが新しいブンタン3品種の育成に成功し、2023年12月25日付で「じゅうとうべいゆ 寿刀白柚」、「ちようさんべいゆ 長三白柚」および「しゅんべいべいゆ 俊平白柚」が農林水産省に品種登録されました（登録番号：第29970号、第29971号、第29972号、品種登録者：国立大学法人九州大学）。

3品種に共通する特長は、①種子が小さく、少ないこと、②グレープフルーツタイプの味で、香りや食感に個性があること、③早生で、甘みが強いこと、および④露地栽培しやすいことであり、3品種は消費者にも生産者にも嬉しい品種といえます。現在、高品質果実生産のための栽培管理に関する研究、および果実の流通、加工および利用に関する研究を行っています。2024年4月から現地試験栽培を開始し、2030年の栽培実用化を目指しています。



着色時期が早い
ジューシー食感
華やかな香り

可食時期が早い
プルプル食感

歯ごたえがある
シャキシャキ食感

【新しいブンタン3品種の特長】

- ◆ 種子が小さく、少ない。
→ 食べやすく可食部が多い、加工しやすい。
- ◆ グレープフルーツタイプの味で、香りや食感に個性がある。
→ 消費者の嗜好の多様化で生じる新たなニーズに答える。
- ◆ 早生で、甘みが強い。
→ 年内収穫で良食味（高糖度 & 低酸度）の果実を生産可能
→ 需要が高まる時期に高品質果実を販売できる。
- ◆ 露地栽培しやすい
→ 栽培適地の拡大
栽培経費の大幅な削減および省力化による収入の増加
CO₂削減



消費者



生産者

消費者にも生産者にも嬉しい
果樹産業の課題解決につながる品種

研究者(酒井准教授)からひとこと

これまで、農学研究院の研究グループは、果樹の遺伝・育種的な研究を進める中で、消費者にも生産者にもメリットがある優れた遺伝的性質をもつ個体を見出してきました。研究グループが育成したブドウ「BK シードレス」(2011年農林水産省に品種登録)は、省力的に高品質果実を生産できることから、日本各地に栽培が広がっています(2011年9月13日、2013年9月6日、2014年9月18日プレスリリース参照)。新たに品種登録されたブンタン3品種も日本各地で栽培され、果樹産業の課題解決の一翼を担うことが期待されます。

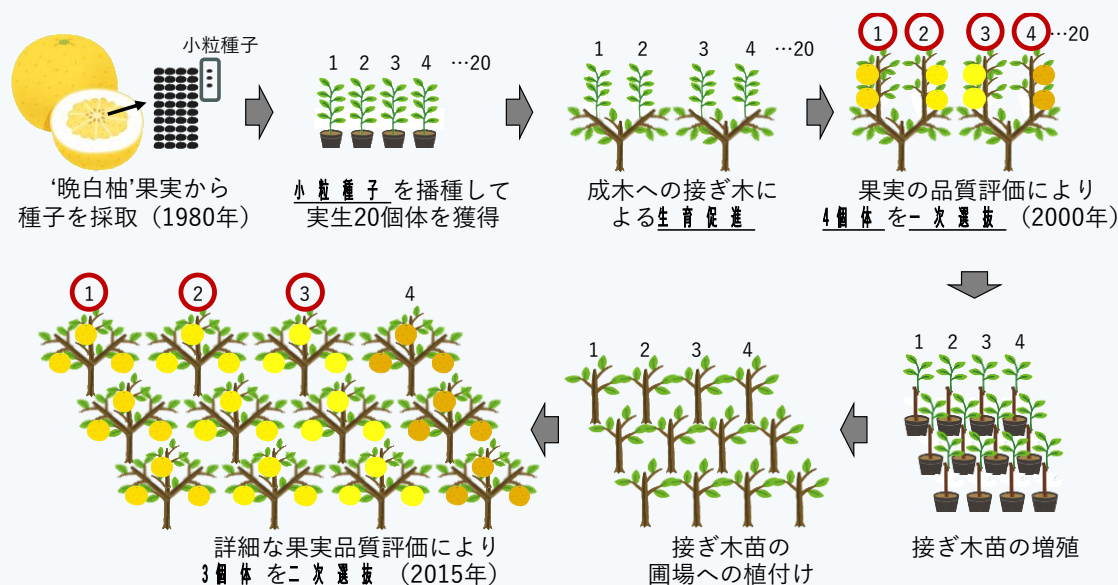
【用語解説】

ブンタン：「ザボン」、「ボンタン」とも呼ばれる世界最大のカンキツ。グレープフルーツ、ナツミカン、ハッサクはブンタンの雑種と推定されている。「晩白柚」などの品種が有名。

品種登録：種苗法に基づく品種登録制度により、植物新品種の育成者の権利を保護する。

農林水産省に品種登録出願し、審査を経て、品種登録される。育成者権の存続期間は木本性植物では30年。

ブンタン新品種の育成過程



【研究の要点1】

小粒種子から遺伝的変異の大きい個体が生じやすい。

【研究の要点2】

成木への接ぎ木を用いた効率的な一次選抜

+

接ぎ木苗を用いた丁寧な二次選抜

↓

効率的で丁寧な選抜を実現

【研究の要点3】

附属農場での露地栽培

山際のやや低温になりやすい環境での栽培・選抜

+

十分な調査木を植栽できる広大な圃場

↓

露地栽培で高品質な果実を生産できる品種の育成に成功

主要な育成者および品種名の由来になった九州大学の研究者

● 主要な育成者

若菜 章 博士

1980～2020年代に附属農場および園芸学研究室に在職

果樹の遺伝育種および栽培技術に関する研究に従事

九州大学育成ブドウ品種「BK シードレス」の主要な育成者

● '寿刀白柚' の名前の由来

伊藤 寿刀 博士

1920～1950年代に園芸学研究室に在職および農場長に在任

果樹の遺伝育種に関する研究に従事

● '長三白柚' の名前の由来

田中 長三郎 博士

1920～30年代に園芸学研究室に在職

カンキツの分類に関する研究に従事

カンキツの二大分類体系の一つを構築

● '俊平白柚' の名前の由来

上本 俊平 博士

1950～80年代に園芸学研究室に在職および農場長に在任

園芸植物の遺伝育種、生理および生態に関する研究に従事